



糸原 文昭 議員

質問

町立奥出雲病院の医療体制は

町長 病院内の感染対策をはかる



町立奥出雲病院



地域おこし協力隊員 そろばん珠削りの様子

質問 今年5月8日

から新型コロナウイルスウィルス感染症の感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」へ移行となる。今後、新型コロナウイルスと共存しながら医療体制を継続していく必要がある。町立奥出雲病院の医療体制は。

町長 新型コロナウイルスの確保病床は、急激な感染拡大時に迅速に対応できるよう確保する。また、自宅療養者の健康観察、PCR検査や抗原定量検査も従来どおりとする。職員のマスクは着用を継続し、病院への受診時や家族の面

会時等にマスク着用をお願いすることなどで、院内の感染対策をはかっていく。
質問 コロナ禍で観光業や飲食業は大きなダメージを受けた。「5類」に移行すること、人の動きは活発となるが、停滞した経済をどう立

て直すのか。

町長 県の新年度予算では、特典付きの飲食券による需要喚起策も出されることから、観光協会や商工会などと連携をは

かる。

また、来年度は観光推進計画を策定し、インバウンド、観光商品の高付加価値化を進めるために、国や県の補助事業を有効に活用する。

地域おこし協力隊について

質問 地域おこし協力隊員の定住率は、

全国で65・3%、島根県では58・3%となっている。

本町の定住についての考えは。

町長 本町における協力隊員の定着率は58・8%である。令和5年度は、地域おこし協力隊員の現役隊員と卒業隊員との移住者交流会を行う予定である。

質問 地域おこし協力隊員の起業前や起業後の支援は。

町長 令和2年度から、起業・創業支援施設「みらいと奥出雲」で、起業コーディネート、起業者の育成、起業前や起業後の支援を行っている。

その他の質問

少子化対策と情報発信について